



〈H30121121〉

注 意 事 項

- 1 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
- 2 問題は2～10ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 3 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
- 4 マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははつきりとマークすること。訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。また、マークシートに消しゴムのかすを残さないこと。
- 5 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- 6 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
- 7 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
- 8 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

マークする時	● 良い	○ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	○ 悪い	○ 悪い

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

(多木浩二「眼の隠喩」より)

注1 ジャンバッティスタ・ヴィコ(一六六八～一七四四) イタリアの哲学者。

注2 レヴィロストロース(一九〇八～二〇〇九) フランスの社会人類学者。

注3 ド・シャンボオとステルクス ともに二〇世紀の美術史家。

注4 ルドルフ・ワイトコウワー(一九〇一～一九七二) ドイツの美術史家。

注5 ロバート・ヒューズ(一九三八～二〇二二) アメリカの美術史家。

注6 スキアポッド 古代ギリシャ人が想像した一本足の怪物。

注7 ポツシュ(一四五〇頃～一五一六) 北ネーデルラント(現在のオランダ)の画家。

注8 ブリュエーゲル(一五三〇頃～一五六九) ブラバント公国(現在のオランダ)の画家。

問一 空欄

A

D

に入る最も適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、解答欄にマークせよ。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|--------------------------|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| A | イ | 具体的 | <input type="checkbox"/> | 現実的 | ハ | 感覚的 | ニ | 意図的 | ホ | 必然的 |
| B | イ | 理想化 | <input type="checkbox"/> | 客観化 | ハ | 可視化 | ニ | 一般化 | ホ | 活性化 |
| C | イ | 多様化 | <input type="checkbox"/> | 形骸化 | ハ | 合理化 | ニ | 抽象化 | ホ | 無力化 |
| D | イ | 客観的 | <input type="checkbox"/> | 相対的 | ハ | 精神的 | ニ | 感情的 | ホ | 独断的 |

問二 傍線部甲「インドはヨーロッパのイドだ」の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。「イド」は精神分析学の用語

- イ ヨーロッパ人が意識下で許容できない暗黒面を、他者であるインド特有の属性とみなすこと
- ロ ヨーロッパとインドは、文化と非文化という二項対立によってのみ理解されるということ
- ハ ヨーロッパの罪悪感を空間としてとらえたものがインドであるということ
- ニ ヨーロッパ人はインド的世界を自分たちの視点で相対化したということ
- ホ ヨーロッパの中世以降の文化の源泉はインドにあるということ

問三 傍線部乙「古代の抱いたイメージとキリスト教の教義を和解させなければならなくなる」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 中世のキリスト教建築において、さまざまな怪物が装飾として使われている矛盾に対し、合理的説明を加えなければならなかったということ

ロ キリスト教の世界観の中で、地獄という概念が確立するに伴い、その住人としての存在が必要となり、怪物が利用されたということ

ハ 聖書に描かれる登場人物たちの罪によって怪物たちが誕生せざるをえなかった、という事柄に対し理解を示すこと

ニ 中世以降のキリスト教神学において、怪物さえもキリスト教的世界観の中に場所を与えなければならなくなつたということ

ホ ひとたび消滅しかかった怪物を復活させることで、人間の生を活性化させる可能性を広げたということ

問四 本文中、繰り返し言及されている「隠喩的な地理学」の内容に合致しないものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 具体的な空間認識ではなく内面的作用としての世界観

ロ 自分たち以外の世界は何かが欠落しているとみなす思考

ハ 世界を文化と非文化の二項対立で考える空間認識

ニ 神話的世界観と科学的世界観に分ける方法論

ホ 空間を象徴的イメージで捉えようとする態度

問五 本文の内容に合致するものを次の中から二つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 古代ギリシャ人たちが感じていた、野蛮な存在に襲撃されるかもしれないという恐怖が、辺境の地に棲む怪物というイメージを作りあげた。

ロ 太古の人間が、与えられたものから本質を抽象できなかったのは、自分たち以外の世界に対する想像力を欠いていたからである。

ハ アレキサンダー大王の遠征は、人間世界における文化と非文化という対立の構造をよく象徴している。

ニ 古代ギリシャ人たちが作りだした怪物たちは、先天的に自分たちよりもはるかに劣るものが存在するという考えの基本となった。

ホ 中世においては、怪物といえども、神の被造物である以上、その存在は人間と同格のものとして許されるべきであると考えられた。

ハ 古代において、地続きの空間に生きていた怪物たちは、中世に入って、天国に対する地獄の住人という縦の関係でも捉えられるようになった。

(二) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

そのとき、横の裂けたモンペから、毛糸の赤い腰巻が見えた。そして彼は、そのおかねへ女を感じている。
(一九四八)

今から五十年くらい前に書かれた日本語というのは、どんなものだろうと思って、ある小説を開いて見たら、こんな文章が目飛び込んできたので、びっくりした。ひよつとしたら、こんな風に手当たりしだいに目についた本を手にとって、めくっていったら、日本語というモンペが次々と裂けて、赤い腰巻などが見えて、何度もびっくりさせられるかもしれない。時間を無意味に飛び超えてみると、急に赤いものが見えることもあるものだ。勝手なことを考えながら、飛び石を渡るつもりで遊べば、面白いことも発見できるだろう。

いや、日本の女は若いうちは何ほハイカラがっても、年を取って来たら結局洋服はよう着んようになるねんで。こいさんなんかもうお婆さんになった証¹コや。(一九四八)

それにしても、なんと遠い世界のことにように聞こえるのだろう。これが自分が生まれるたった十五年くらい前に書かれた日本語かと思うと、信じられない。遠い世界のもののように感じられるのは、腰巻や着物という布のかたちそのものではない。日本語が、ゆつたりとした衣服のように、文学を取り巻いているように感じられる、そのゆるやかさが、遠い昔のことのように感じられるのだ。それは、肌に着することなく、縫われたものの誇りをシワやヒダにして、はつきりと表現している。

失われていった日本の衣服のことを考えながら、わたしは、衣服としての日本語のことを考えていた。女性の衣服について言えば、それを脱がしてしまうというつまらない幻想は、いつ頃日本に入ってきたのだろう。なぜ、つまらないかと言うと、そこには、**A** であって、それに対応する **B** がある、というような考え方が臭っているからだ。「衣」を「言葉」に置き換えて考えてみると、言葉は内容を引き立たせたりもするが、隠しているわけだから、なるべく目立たないほうがいい、ということになってしまう。

女が仏倒しに雪の上に仰向けに倒れた。炎いろの裾が裂けて、雪に白い素肌の腿がひろがった。(一九五七)

毛糸の赤い腰巻が内部に見えていた頃は、衣の下にあるものもまた衣だった。ところがここでは、衣の下に素肌が見えてしまっている。^甲素肌という言葉は、今日でも、化粧品のコマーシャルなどによく使われるが、救いようのない日本語だと思う。さて、この素肌の女に対応する男を見てみると、これも仕方ない男だと言いたいようがない。

父の国民服の胸にかけられた袈^{カサ}姿を見、血色のよい若い下士官たちの金釦^{ホウケン}をはね上げているような胸を見た。私はその中間にいるような気がした。(一九五六)

C ので、通俗的な感じがする。ふたつのアイデンティティを右と左に置いて、自分はそのどちらでもないと言っているのは、裸の自分というものがあると主張したがっているということかもしれない。そしてその一見ハダカの彼は、「直立不動の姿勢を取っている。エイ兵²か銅像のようだ。」

これが、「直立不動の日本語」ならば、「道端に倒れている日本語」が、それに対抗して出てきて不思議はない。倒れている身体を衣服が包んでいる。それどころか、ここで倒れている身体は、衣服だけから出来ていて、中味が **X** であるような印象さえ与える。

エル・バラムの体は黒いアスファルトの上に、緑色のシャツと、紺のズボンに覆われた堆積のようだった。倒れたことを静かに主張していた。(一九五七)

人(エル)も道(アスファルト)も服(シャツ、ズボン)もカタカナに変わってしまったて、人は衣服の堆積のように投げ出されている。ただ、色彩だけが、黒、緑色、紺、と漢字で重たく記されている。身体よりも衣服が、衣服よりも色彩の方が重いアンバランスな風景に共感が持てる。

それとは逆に、衣服が素肌を隠し、その衣服が剥がれるときが **Y** の時であるという、通俗的な図柄は、ポルノ小説に吸収されていった。ポルノ小説にとつては、日本語という衣もまた、脱げるものなら脱いでしまいたいもので、できるだけ気にならない薄いものが良いということになるのだろう。

でも、衣服を脱いだくらいで裸のすさまじさが現われると考えるのは甘い。そうではなくて、たとえば、顔を塗りたくったり、仮面を被ったりすると、裸が現われてくることがある。ちょうどその頃、衣服によって隠されることのない顔³をト料で隠し、逆に身体は全く隠さずに裸で、自殺した者があった。

この夏の終りに僕の友人は朱色のト料³で頭と顔をぬりつぶし、素裸で肛門に胡瓜をさしこみ、縊死したのである。(一九五七)

これは、衣服によって隠されることのない顔という場所に厚く衣装を被せる日本語であるとも言える。こ²ういう日本語は、めずらしい。こ²ういう日本語が可能だということ自体、それまで誰も知らなかったのではないか。

いずれにせよ、言語は肌に違和感を残すものである。それをごまかすのが文学ではないことだけは確かだ。日本語自身、自分の衣服としての違和感を意識し、それが滑稽なほど明確に現われるのもよい。

ぼくは今、この記録を箱のなかで書きはじめています。頭からかぶると、すっぱり、ちょうど腰の辺まで届くダンボールの箱の中だ。(一九七三)

書き手は、ダンボールの中で書いているのではなく、言葉をダンボールのように使って、書いているのではないか。そんな **Z** が、文体にある。ダンボールというものは、厳密に言えば、服の一種と言うよりは、家の一種と言うべきかもしれない。でも、その家にはひとりしか入れないし、その家は身体に付いてまわる、服のような家なのだ。

(多和田葉子『カタコトのうわごと』より)

問六 傍線部1〜3にあたる漢字がカタカナ部分に使われている語をそれぞれ次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1 | イ | コ別 | 口 | 根キヨ | ハ | 凝コ | ニ | キヨ動 | ホ | キヨ住 |
| 2 | イ | エイ業 | 口 | エイ霊 | ハ | エイ角 | ニ | エイ華 | ホ | エイ生 |
| 3 | イ | ト中 | 口 | ト露 | ハ | ト歩 | ニ | ト布 | ホ | 企ト |

問七 空欄 **A** と **B** に入る最も適切な言葉の組み合わせを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- | | | | | |
|---|---|---------|---|---------------|
| イ | A | 肌こそが基本 | B | 誇張するものとしての衣 |
| ロ | A | 衣が重要 | B | 表層的なものとしての肌 |
| ハ | A | 衣は外見 | B | 本質的なものとしての肌 |
| ニ | A | 衣こそが主眼 | B | 副次的なものとしての肌 |
| ホ | A | 肌は女性の原点 | B | 取り去るべきものとしての衣 |

問八 傍線部甲「素肌という言葉は、今日でも、化粧品のコマーシャルなどによく使われるが、救いような日本語だと思う」は、筆者のどのような価値観を反映しているか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 素肌という言葉は、化粧品を売るために作られた商業主義的な言葉なので、文学的ではない。
- ロ 素肌という言葉は、衣の下にも衣があるべきだという考えを押しつけているので、傲慢である。
- ハ 素肌という言葉は、肌があたかも貧相であるような表現なので、コマーシャルに使うには効果的ではない。
- ニ 素肌という言葉は、衣が目立たないほうがよいという印象を与えるので、時代遅れである。
- ホ 素肌という言葉は、肌を最も飾りのないものとして規定している言い方なので、認識として凡庸である。

問九 空欄

C

は直前の引用を説明している箇所である。ここに入る最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 人物の肉体描写を用いて、主人公のアイデンティティを示している
- ロ いわゆるアイデンティティが、衣を比喩として取り扱われている
- ハ 現代に存在しなくなった服が、人物のアイデンティティとして使われている
- ニ 服の下にある肉体の重厚さが、過度に誇張されている
- ホ 登場人物の服が、微に入り細に入り描かれている

問十 空欄

X

Z

に入る最も適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、解答欄にマークせよ。

- | | | | | | |
|---|--------|--------|--------|--------|--------|
| X | イ 非在 | ロ 不在 | ハ 空疎 | ニ 無意味 | ホ 虚無 |
| Y | イ 窮地 | ロ 絶対 | ハ 現実 | ニ 危機 | ホ 真実 |
| Z | イ のんきさ | ロ かなしみ | ハ むなしさ | ニ おかしみ | ホ ありさま |

問十一 傍線部乙「こういう日本語は、めずらしい」の理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 死を軽く扱いついでているので日本語の小説としては珍しいと考えている。
- ロ 読者に与える違和感が強すぎるので評価はしているが敬遠している。
- ハ 顔が衣服になっているという点で珍しいのでよいと思っている。
- ニ 突飛な内容に見合った違和感を残す文体を高く評価している。
- ホ 内容が現実的ではないが日本語の使い方は賞賛している。

問十二 本文の主張に合致するものを次の中から二つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 文の内容が文体よりも重要だという考えはつまらない。
- ロ もう使われなくなった言葉を文学で使うことは、いけないことではない。
- ハ 文学においては、中味(内容)と表面(文体)とは切り離すことができない。
- ニ 五十年前の日本語に接することによって、人々は文学の豊かさを認識することができる。
- ホ 日本語に対する違和感を大切にしないと、逆に正しい日本語を保持することができない。
- ヘ ある言葉や文章を一読して感じる違和感は、文学にとつて排除してはならないものである。
- ト めまぐるしい現代において、文学を通してゆるやかな日本語に触れるのは重要なことである。

(三) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

よしい^aといひける宰相のはらから、大和の掾^{注1}といひてありけり。これがもとの妻のもとに、筑紫より女を率て来てすゑたりけり。もとの妻も、心いよく、今の妻もにくき心なく、いとよく語らひてゐたりけり。かくてこの男^イは、ここかしこの国がちにのみ歩きければ、ふたりのみなむゐたりける。この筑紫の妻、しのびて男したりける。それを、人のとかくいひければ、よみたりける。

夜はにいでて月だに見ずはあふことを知らずがほにもいはましものを

となむ。かかるわざをすれど、もとの妻、いと心よき人なれば、男にもいはでのみありわたりけれども、ほかのたよりより、「かく男^ハ」と聞きて、この男思ひたりけれど、心にもいれで、たださるものにておきたりけり。

さて、この男、「女、こと人にもいふ」と聞きて、「その人とわれと、いづれをか思ふ」と問ひければ、女、

花すすき君がかたにぞなびくめる思はぬ山の風は吹けども

となむいひける。

よばふ男もありけり。「世の中心憂し。なほ男せじ」などいひけるものなむ、この男をやうやう思ひやつきけむ、この男の返りごとなどしてやりて、このもとの妻のもとに、文をなむひき結びておこせたりける。見ればかく書けり。

身を憂しと思ふ心のこりねばや人をあはれと思ひそむらむ

となむ、こりずまによみたりける。

かくて、心のへだてもなくあはれなれば、いとあはれとおもふほどに、男^ホは心かはりにければ、ありしこともあらねば、かの筑紫に親はらからなどありければいきけるを、男も心かはりにければ、とどめ^ニ **B** なむやりける。もとの

妻なむもろともになりならひにければ、かくていくことを、「いと悲し」と思ひける。山崎にもろともにいきてなむ、

舟に乗せなどしける。男も来たりけり。このうはなりこなみ、ひと日ひと夜、よろづのことをいひ語らひて、つとめて

舟に乗りぬ。いまは男もとの妻は帰りなむとて車に乗りぬ。これもかれも、いと悲しと思ふほどに、舟に乗りたまひぬ

る人の文をなむもて来たる。かくのみなむありける。

ふたり来し道とも見えぬ浪の上を思ひかけでもかへすめるかな

といへりければ、男も、もとの妻も、いといたうあはれがり泣きけり。漕ぎいでいぬれば、え返りごともせず。車は

舟のゆくを見てえいかず、舟に乗りたる人は、車を見らるとおもてをさしいで、漕ぎゆけば、遠くなるままに、顔はいとちひさくなるまで見おこせければ、いと悲しかりけり。

〔大和物語〕より〕

注1 大和の掾 大和国の国司の三等官。

注2 うはなりこなみ 後妻と本妻。

問十三 傍線部 a 「よしい」といひける宰相のはらから」と同一人物をさしていない語句を、文中のイ、ホの中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

問十四 空欄 A に入る語句として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ すらむ 口 すなり ハ すべし ニ せむ ホ しけむ

問十五 傍線部 b、f の「ふたり」はそれぞれ誰をさすか。次の中からそれぞれ一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 男ともとの妻
- ロ 男と筑紫の妻
- ハ もとの妻と筑紫の妻
- ニ 筑紫の妻と恋人
- ホ 筑紫の妻とはらから

問十六 傍線部 c 「思はぬ山の風は吹けども」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 急にあなたから非難されて動揺していますが
- ロ 思いがけず他の男性から言い寄られています
- ハ 世間の人々から思いも寄らぬ仕打ちにあっています
- ニ 唐突な質問をされて自分でもはつきりわかりませんが
- ホ 自分のことを思ってくれない人からひどい仕打ちを受けましたが

問十七 傍線部 d の和歌「身を憂しと思ふ心のこりねばや人をあはれと思ひそむらむ」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 我が身を哀れと思う心が残っていたらいいのに。こんな人に恋心を抱いてしまったことよ。
- ロ 私につれない夫の態度をつらいと思う気持ちが強まったせいで、人の世の哀れが強く感じられるようになったことよ。
- ハ 自らをかわいそうに思う気持ちが残っているせいで、言い寄ってくれる人を素晴らしいと思ってしまうのだろうか。
- ニ 情けない我が身をいとわしいと思う心が懲りていないせいで、またほかの人を愛しく思い始めてしまったのだろうか。
- ホ 我が身を愛しいと思う気持ちが残っていたらいいのに。そうしたら、浮気な男に気持ちが動いたりすることはないだろう。

問十八 空欄 B に入る語として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ て
- ロ で
- ハ に
- ニ ざら
- ホ つつ

問十九 傍線部 e 「いと悲し」と思ひける」について、「思ひける」の主体は誰か。次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ もとの妻
- ロ 筑紫の妻
- ハ 男
- ニ 筑紫の親はらから
- ホ 舟の漕ぎ手

問二十 傍線部g「漕ぎいでていぬれば、え返りごともせず。」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 別れを惜しんで歌を詠んではみたが、舟が出てしまい、舟の女は送るすべもなかった。
- ロ 女がことわりもなく、舟を漕ぎ出して去ってしまったので、車の二人は返事もしなかった。
- ハ 筑紫に帰る女は何か言いたかったが、舟が漕ぎ出して行ってしまったので、手紙に返事もしなかった。
- ニ 歌を見て夫の真意に気づいたが、舟を出してしまっていたため、筑紫に帰る女は返事もできなかった。
- ホ 歌を見て返歌をしたかったが、舟がすでに漕ぎ出してしまっていたので、車の二人は返事もできなかった。

問二十一 本文の内容と合致するものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ もとの妻は気の良い人だったが、筑紫の妻の浮気癖にあきれて忠告した。
- ロ 男は筑紫の妻が浮気をしているのを知って、筑紫の妻への愛情が冷めた。
- ハ 筑紫の妻の恋人である男は結婚を望んでいて、その思いを和歌で訴えた。
- ニ もとの妻と筑紫の妻とは、互いに親しくしており、友情で結ばれていた。
- ホ 男は筑紫の妻を、親・兄弟のもとへ帰してしまったが、あとで後悔した。

〔以下余白〕